



# 伊保小だより

NO.12  
令和2年6月24日  
高砂市立伊保小学校

校訓 かしく・つよく・うつくしく

## 熱中症予防とマスク

「登下校時において、気温が高い日や呼吸が苦しい様子が見られる場合、必要に応じてマスクを外して熱中症にならないように」との通知が県教育委員会よりありました。子どもたちに必要に応じてマスクを外すよう指導します。登校時など、ご家庭でもご配慮をお願いします。

また、ランドセルの中の予備のマスクを使った場合、予備のマスクの補充をランドセルをお願いします。

## 学校に置いていても良いもの

登下校時の携行品の重さや量について、過重になっているのではという心配の声もあり、伊保小学校では、以下のように考えたいと思います。夏休みが短くなり、暑い時期の登下校が心配という声も聞きます。子どもたちの負担が少しでも軽くなるよう、計画的に持って来させたり、持ち帰らせたりするなどの配慮をしますので、ご理解のほど、よろしくをお願いします。

- 1 国語、算数は毎日持ち帰る。(教科書、ドリル、ノート等)
  - 2 それ以外の教科については、学校に置いておいても良い。
    - ・宿題に必要、テスト前など、必要に応じて担任が指示をした場合は必ず持ち帰る。
    - ・理科、社会、生活科などは、基本的に担任が預かるのではなく、自分で管理をする。
  - 3 絵の具セット、習字セット、裁縫セット等については、必要に応じて置いておく。  
そうでない場合は、持ち帰る。(筆、パレット等は、家で洗うようお願いします。)
- ※ 国語、算数以外は必ず置いておくということではありません。  
自学や予習、復習などで使いたい場合、いつでも持ち帰ってもらってけっこうです。

## ペップトーク

女子バレーボールの元全日本代表選手だった益子直美さんは、2015年から「益子直美カップ小学生バレーボール大会」を始めました。子どもたちにバレーボールを思いっきり楽しんでほしい、という願いを含め、この大会の決まりは、「指導者が、子どもたちを絶対に怒ってはいけない」ということでした。戸惑った指導者側から「怒らない代わりに、どう指導すればいいのか」と訊かれた益子さんも、怒る以外の指導法に触れたこともなく、答えられなかったそうです。そこから、心のもち方や前向きな言葉かけについての勉強を始めたそうです。たとえば、マイナスの言葉をプラスの言葉に変換して人に伝える「ペップトーク」という技術です。

「ペップトーク」は、もともとアメリカでスポーツの試合前に監督やコーチが選手を励ますために行っている短い激励のスピーチです。「PEP」は英語で、「元気・活気・活力」という意味があります。

「ミスをするな」を「慎重にやろう」、「なんでできないの」を「ここはできているね」などと、同じことでも別の表現で伝えると、子どもたちの顔がパッと明るくなったそうです。そんなふうにプラスの言葉を使っていると、益子さん自身の心も前向きになっていくのを感じたそうです。子どもたちのために、と思って始めたことが、学べば学ぶほど、自分の心がラクになり、ネガティブだった益子さんが変わったそうです。

学ぶ気持ちさえあれば、何歳からでも習得できるということに、益子さんは気づいたそうです。

## 2020年 伝えたい言葉

あなたは生きています。生きていうだけで、幸せになる資格をいつも持っています。

水谷 修『こどもたちへ』より